

(仮称) 遠軽豊里 IC 周辺施設に係る提言書 (案)

平成 27 年 12 月

**(仮称) 遠軽豊里 IC 周辺施設
基本計画検討協議会**

目次

第1章 はじめに.....	1
第2章 (仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設の基本計画検討に係る経緯.....	2
1. 計画予定地について.....	2
2. 基本計画の検討について.....	3
第3章 提言.....	4
1. コンセプト.....	4
2. 整備の考え方.....	4
3. 運営管理のあり方.....	9
第4章 今後に向けて.....	11
1. 整備のイメージ.....	11
2. 運営に向けた検討方法.....	15
資料編.....	19
1. 委員名簿.....	19
2. 検討経過.....	20

第1章 はじめに

高規格道路旭川紋別自動車道は、比布町を起点として愛別町、上川町、遠軽町、湧別町を經由し、紋別市に至る延長約 130km の一般国道の自動車専用道路として整備が進められていて、現在丸瀬布 IC までの 80.5km、約 62%が完成供用されています。

現在工事が進められている丸瀬布遠軽道路は、丸瀬布 IC から遠軽町豊里までで、平成 28 年度には丸瀬布 IC から(仮称)瀬戸瀬 IC まで約 10km が開通予定となっています。次の IC となる(仮称)遠軽豊里 IC の開通予定は国土交通省からは発表されていませんが、平成 30 年代の早い時期の開通が目指されているようです。

この(仮称)遠軽豊里 IC の位置は、えんがるロックバレースキー場周辺ということであり、町もこの高規格道路の完成に併せ、スキー場周辺整備を予定しており、スキー場のロッジを兼ね、道の駅機能を有した年間を通して利用できる施設を整備し、遠軽町の PR 並びに活性化を図ることが検討されています。

この度、(仮称)遠軽豊里 IC の開通と同時のオープンを目指して準備が進められている IC に隣接したスキー場周辺の整備を進めるにあたり、地域の意向を反映した活力のある施設となるよう、スキー場周辺整備についてコンセプトや基本方針を検討し、とりまとめましたので提言します。

第2章 (仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設の基本計画検討に係る経緯

1. 計画予定地について

(仮称)遠軽豊里 IC は、平成 30 年代に供用が予定されている旭川・紋別自動車道のインターチェンジです。(仮称)遠軽豊里 IC は、供用後しばらくの間、多くの利用が予測¹されている丸瀬布遠軽道路の端末になることが考えられています。



図 1 計画予定地の位置²

旭川・紋別自動車道、丸瀬布遠軽道路について

旭川・紋別自動車道は、北海道縦貫自動車道比布ジャンクションから分岐し、紋別市に至る延長 130km の一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道と一体となって道央圏・道北圏とオホーツク圏を結ぶ高規格幹線道路網を形成します。

このうち丸瀬布遠軽道路は、旭川・紋別自動車道の一部を形成する丸瀬布インターチェンジから遠軽豊里インターチェンジに至る延長約 18km の事業であり、国土・地域ネットワークの構築により道北圏とオホーツク圏の連携強化を図り、物流効率化の支援や個性ある地域の形成、円滑なモビリティの確保に寄与することを目的としています。

出典：旭川・紋別自動車道丸瀬布遠軽道路 再評価原案準備書説明資料、北海道開発局、平成 24 年度

¹ 丸瀬布遠軽道路は 6,200～6,600 台/日の通行があると予想されている。(旭川・紋別自動車道丸瀬布遠軽道路 再評価原案準備書説明資料、北海道開発局、平成 24 年度)

² 位置図は社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会 第 5 回委員会参考資料をもとに作成

また、計画予定地には、1 シーズン 4 万人程度の利用があるロックバレースキー場があり、町民のスポーツ振興の場として活用されていますが、ロッジをはじめ施設の老朽化が進んでいます。

第2次遠軽町総合計画では、観光・物産の振興として、「地域資源を生かした魅力ある観光地づくり」の中で、「高速交通網の延伸に合わせた新たな観光情報拠点の整備」の検討が考えられています。

インターチェンジの供用に合わせ、地域の観光振興や情報発信に関する相乗効果が生まれることが考えられるロックバレースキー場と一体となった道の駅整備を検討することになりました。

2. 基本計画の検討について

ロックバレースキー場と一体となった道の駅の整備に向けた基本計画を検討するために、地域の関係団体を代表する方及び学識者で構成する「(仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会」(以下、協議会)を設置しました。

また、検討の途中には、町民が参加するワークショップの開催により意向を把握しました。協議会では、その内容を確認し、検討に反映しています。

検討結果は、今後、具体的な運営などの検討に当たっての指針になるように、本提言書をまとめました。

第3章 提言

1. コンセプト

協議会では、整備する道の駅（ゲレンデ周辺の夏利用などの利活用を含める）の基本的な考え方を「コンセプト」として設定しました。このコンセプトは、協議会の議論や町民参加によるワークショップの意見を基に設定しています。

ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅

ロックバレースキー場に隣接し、札幌・旭川方面から見るとオホーツク圏への玄関口となる立地特性を活かして地域の個性を演出する道の駅づくりを進めることを表しています。

2. 整備の考え方

コンセプトを実現するための整備の考え方を、協議会やワークショップで話された結果から3つの視点で整理すると、次のようになります。

1. 利用者に様々な体験を通して「遠軽、オホーツク」を感じてもらう
スキー場併設ならではの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした販わいづくり。
2. 住民が主体になり「遠軽、オホーツク」らしい道の駅をつくっていく
食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。
3. 玄関口としての位置づけを明確にし、利用者に「遠軽、オホーツク」を知ってもらう
旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

以下では、3つの整備の考え方について整備の方向性を記載していますが、今後、より詳細に運営を考慮しながら検討する必要があります。

全国でも数少ないスキー場併設の道の駅であり、高規格幹線道路 IC のすぐそばにスキー場があるという珍しい立地を活かしたサービスを提供します。

(1) スキー場を活用したアクティビティ³の提供

ロックバレースキー場は、スキー・スノーボードの市民の利用やスキー授業の他に公式大会や合宿などが行われるなど、冬期のレジャー・スポーツ拠点として活用されています。今後、オホーツク観光の一環としてのスキー体験や雪遊び体験など、当地を通過する観光客に寄ってもらうサービスの提供が考えられます。

一方で、夏期は、地元高校生の部活や合宿などのトレーニング地として利用がある他には、現在は目立った利用がありません。夏期の観光客が立ち寄り、子どもが遊べるようにしたり、同伴しているペットを遊ばせるドッグランとして利用するなどの活用が考えられます。森の中や旧ゴルフ場を活用したトレッキングコース、マウンテンバイクコースの設定など、グレンデエリアだけにこだわらない資源の活用が考えられます。

(2) 斜面（スキー場）を利用した風景づくり

道の駅施設から見えるロックバレースキー場の斜面は、来訪者を歓迎し、また、癒やすこともできる空間です。遠軽町らしさ・オホーツクらしさを演出する風景づくりを継続して行っていくことが考えられます。

例えば、オホーツクでは花による観光が盛んに行われており、遠軽町では太陽の丘えんがる公園で 10ha の花畑にコスモスが咲き誇り、多くの観光客が訪れています。花観光の入り口として、また、既存施設との連携により斜面を彩ることが考えられます。

一方で、多くの花は咲く期間が長くないため、花期以外は寂しい風景になることも予想できます。広い空間を「何もしない（ように見える）」ことも風景づくりであると言えます。現在、夏期には草をきれいに刈り取り、美しい芝生の空間が維持されています。この空間に動物を放牧し癒やしを演出する、子どもたちがのびのびと遊ぶことができる動きのある空間にするなど、季節によって風景を変えることも考えられます。

³ 活動、行動、遊びなどのこと。

(3) 利用しやすい休憩スペースの提供

休憩スペースは、来訪者が休むだけの空間ではありません。これまでもスキーをする子どもを見守る家族の姿がありましたが、アクティビティの休憩やその待ち時間を過ごす、施設内から風景を楽しむ、軽い食事をするなど、様々な目的に対応できる空間づくりが必要です。

**整備の考え方 2 住民が主体になり「遠軽、オホーツク」らしい道の駅をつくっていく
食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。**

圏内には海も山も川もあるため、様々な食材や物産品を集めることができます。来訪者にそれらの食や文化を感じていただきながら、楽しみ、安らげる空間づくりをします。

(1) 食の提供

現ロッジ周辺には食を提供する施設がない一方で、ロックバレースキー場として食の提供は必須になります。また、(仮称)遠軽豊里 IC を利用する来訪者に対して食の提供を行うことも考えられます。

食の提供に際して、「提供する形態」と「食材等のルール」を決めることが必要です。これらについては、道の駅の運営に関わる人々が、持続可能な食の提供を考慮して決めることが望ましいです。

提供する形態： 食の提供には、一つの店舗でゆったり食事ができるレストラン、いくつかのテナントによるフードコート、移動しながらでも食べることができる軽食（食べるときに座る場所を必要としない）などの形態が考えられます。スキー場の利用者が利用すること、(仮称)遠軽豊里 IC の利用者は、オホーツク観光、運送・ビジネスなどの通過型の利用者があることなども考慮しながら食を提供する形態を検討する必要があります。

食材等のルール： 遠軽町やその周辺市町村には、食材としてふさわしい多くの海の幸・山の幸があります。道の駅での地元食材による食の提供は、当地域を知ってもらうアピールのチャンスとして捉え、積極的に行う必要があります。また、「オホーツクの玄関口」としてどのエリアまでの食材を扱うか、時期に応じたメニュー構成の考え方、量や質の確保への取組など、来訪者に魅力のある食の提供の仕方を検討する必要があります。

(2) 野菜、物産品の販売

来訪者への地元産品の販売は、道の駅という施設はもちろん、「遠軽、オホーツク」という地域へのリピーターやファンを増やすチャンスになります。販売する物産の種類、生産・加工地域条件を戦略的に決定すると共に、道の駅で手に取り購入してもらい「また買いたい」と思ってもらえるような質のものを販売することが必要です。

食の提供と同様に、道の駅の運営に関わる人々が、量と質を考慮し販売する産品を決めることが望ましいです。

整備の考え方 3 玄関口としての位置づけを明確にし、利用者に「遠軽、オホーツク」を知ってもらう
旅に楽しさと安全を提供し、
災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

交通の要衝として発展してきた遠軽は、多くの人や物が集まるオホーツクの玄関口です。訪れた人が短い時間でもゆっくり休め、次の地へ向かうために助けになる情報を提供します。

(1) 周辺地域の情報提供

レンタカーを利用する個人旅行の増加、外国人観光客の増加に対応した情報提供が必要です。また、観光情報誌やホームページだけではわからない、期間が限定された情報や地域の詳細な情報、「何がある」だけではなく「何が楽しい、何が感動する」といった楽しみ方の情報など、生きた情報の提供を行う必要があります。

また、情報提供と同時に、スタンプラリー、複数施設での利用可能なサービス券などの連携イベントなどにより周辺地域の周遊性を高め、地域を連携していくことで魅力が向上することが期待されます。

(2) 防災拠点として時間を過ごせる設備

近年、オホーツクでは、風雪害により大規模な通行止めや、人が亡くなる事例も発生しています。遠軽町は、網走・北見・旭川方面への交通の要衝であり、また、整備箇所は、インターチェンジに隣接しています。このような立地条件から、この道の駅は、災害時には緊急の避難場所として利用できるように整備をすることが望まれます。机やいすを格納して仮眠をとれるスペースを確保できるようにしたり、停電時に対応できる発電機や防災用トイレを用意したり、防災グッズを備蓄しておく倉庫や防災ヘリポートな

を整備するなど、道の駅の運営者と遠軽町や関係機関と連携して整備や計画づくりを行うことが考えられます。

(3) 快適に利用できるトイレ・駐車場等

24時間トイレの整備は道の駅として必須ですが、快適で立ち寄りたくなるトイレとして整備、維持管理されることが望まれます。施設はバリアフリーであることが道の駅として求められていますが、それと共に、スキー利用客との共用するスペースでどちらの利用者にとっても利用しやすく、快適に利用できるように管理する必要があります。

駐車場については、道の駅としての利用者に必要な台数と共に、冬期のスキー場利用客にも不便のない規模を確保する必要があります。

また、電気自動車用急速充電器の設置を他の道の駅と連携して行うことも考えられます。

3. 運営管理のあり方

今回検討されている道の駅とスキーロッジを兼ねた施設（以下「中心施設」という）の管理運営方法としては、以下のような方法が考えられます。

(1) 建設者および道の駅としての設置者

道の駅の要件として道の駅の設置者（つまり道の駅として申請できる者）は以下に限定されています。

- A) 市町村
- B) 市町村長に代わりうる公的な団体
 - イ. 都道府県
 - ロ. 地方公共団体が 1/3 以上を出資する法人
 - ハ. 地域を代表して「道の駅」を設置するにふさわしいとして市町村が推薦する公益法人

「中心施設」については、遠軽町が合併特例債等を利用して建設する予定となっており、建設者（および所有者）である遠軽町が「道の駅」としての設置者になることがよいと思われます。

(2) 管理・運営者

管理運営主体としては、町が直営で行う方法と指定管理者制度等を利用した公設民営で行う方法が考えられます。

A) 直営方式（公設公営）

町が直接管理運営を行う方式。トイレ、飲食施設、物販施設など機能毎に業務委託、もしくはテナント方式で運営することが多い。

参考）：ニセコビュープラザ（ニセコ町）：直営方式

- ・情報プラザ棟運営・物販・清掃管理→(株)ニセコリゾート観光協会に委託
- ・直売所（フリースペース棟）→直売会が賃借して管理運営
 - ※ニセコビュープラザ直売会協同組合（会員数 68 名、職員 2 名、パート 2~4 名）
- ・ショップコーナー（フードコート）→テナント方式（5 店）
 - ※休店日はショップ間で調整するルールとなっている。

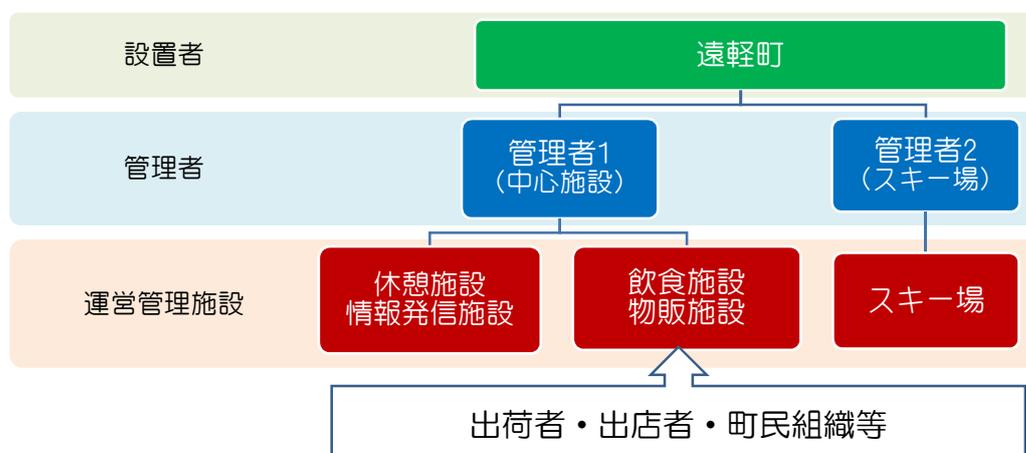
B) 指定管理者方式（公設民営）

施設全体の管理運営を法人その他の団体に包括的に委任する方式。飲食施設、物販施設などはテナント方式にすることもある。

今回検討している「中心施設」における道の駅とスキー場のロジック機能の一体的整備は、利用の効率化、相乗効果を期待しており、施設全体の管理運営は1つの組織が統轄することが望まれます。また、民間事業者のノウハウを活用しつつサービス向上と効率化を目指すため、指定管理者制度を導入することが適切だと思われれます。

指定管理者制度では、制度上は個人以外であれば任意の団体なども指定可能ですが、この「中心施設」の地域振興拠点という特性、および「道の駅」としての必要なサービスを継続安定して確保する必要性などから、公益性を担保しつつ地元産業や観光資源に精通している組織である商工会議所、観光協会等の公益的団体による運営が望ましいと考えられます。また、運動施設であるスキー場は別途管理運営を行い、グレンデ周辺活用では両者が協力・連携して運営を行うことが考えられます。

<運営イメージ>



第4章 今後に向けて

1. 整備のイメージ

(1) 導入機能の想定と検討ポイント

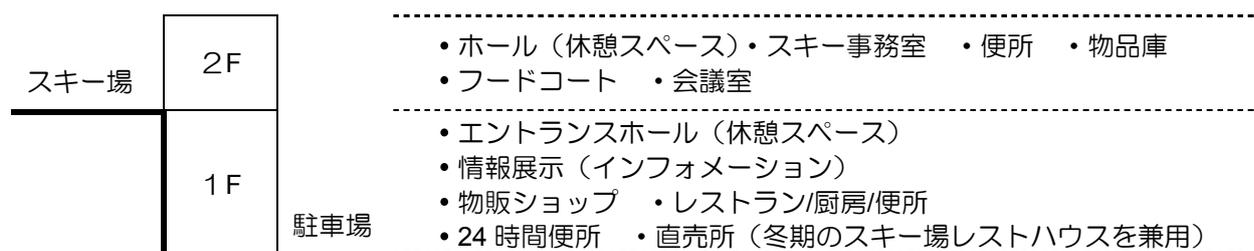
道の駅とスキーロッジを兼ねた「中心施設」について、協議会、ワークショップで検討された主要な機能を整理し、今後の特に検討が必要なポイントをまとめました。

導入機能	機能の分類		検討ポイント
	道の駅	センターハウス	
休憩機能	休憩スペース（道の駅入口ホール） 無料の休憩スペース	ホール休憩スペース(ゲレンデ前) ・父兄がスキー場を眺める。椅子テーブル ・自動販売機 ・一般利用者ロッカー。ベンチ。	①冬期間におけるスキー利用者との混在と区分について ①農産物直売所との兼用について
		レストハウス ・主に学校利用。生徒の飲食、休憩等利用。 ・生徒利用ロッカー。ベンチ。	
情報機能	情報・展示スペース ・地域情報・イベント情報の提供。コンシェルジュ機能。 ・地域情報の展示。企画展示。		①情報提供の種類と範囲について ・遠軽/林-ツツ/歴史/産業/特産品他
飲食機能	フードコート/フードショップ ・無料飲食スペース ・軽飲食提供 ・カウンターサービス	*休憩スペース、レストハウス内での飲食 *道の駅の飲食スペースを利用する	①冬期間におけるスキー利用者との混在について ②店舗の運営形態について ③サービスの提供スタイルについて ④提供メニュー・物品について
	レストラン/厨房 ・レストラン形式。持込不可 ・特産品レストラン ・テーブルサービス *店内便所		
物販機能	地域特産品販売ショップ ・地域加工産品販売 ・水産加工品、冷凍品販売 *宅配取次	*スキー利用者用販売をどうするか（自動販売機での対応など）	
	農産物直売所（夏季利用） ・新鮮野菜の季節販売 *宅配取次		①レストハウスとしての冬季利用について ②店舗の運営形態について
便所機能	店内便所（スタッフ用便所）	センターハウス便所 ・2階スキー利用者用	①季節別、時間別施設区画について
	24時間便所（1階） 自動販売機コーナー	*レストハウス利用者は道の駅便所・自動販売機を利用	
管理機能	道の駅事務室 ・施設の運営、清掃、管理 スタッフ用更衣室・便所	スキー事務室 ・リフト券販売 ・スキー場安全管理 ・レンタル対応	①施設管理運営事務の形態と区分について

注）各機能について「担い手」の検討も必要となります。

(2) 階の想定と規模の検討（参考）

以下のように機能と規模について整理しました。なお、機能・規模は検討の中で出てきた主要な機能を盛り込み、現状のロッジや他の道の駅の事例を勘案して不足しないと思われる規模で設定したもので、施設面積合計はほぼ現在考えられる最大規模となっています。今後提供サービスの絞り込み・変更や、機能別の面積変更をすることを妨げるものではありません。



ア) フロア別の面積

機能	1F	2F	合計
面積	約 800m ²	約 700m ²	約 1,500m ²

イ) 機能別の面積

機能	道の駅	スキーロッジ	共用部分など	合計
面積	約 920m ²	約 310m ²	約 270m ²	約 1,500m ²

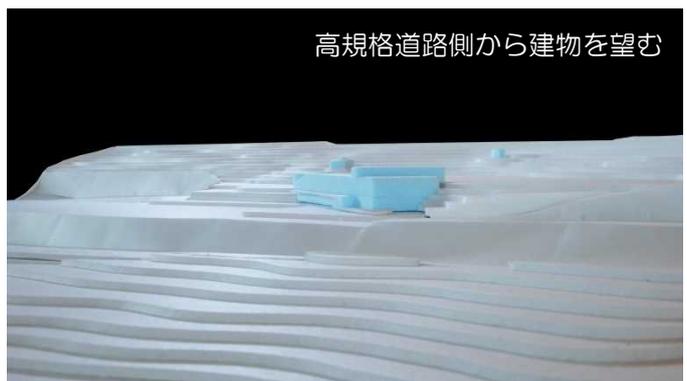
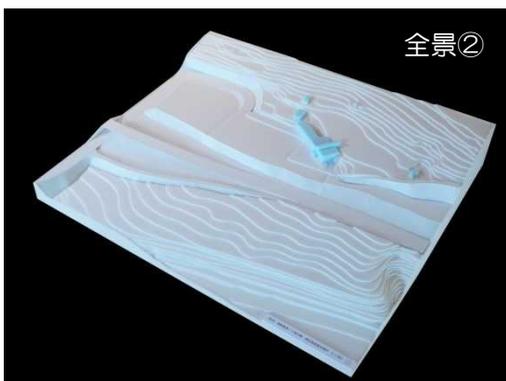
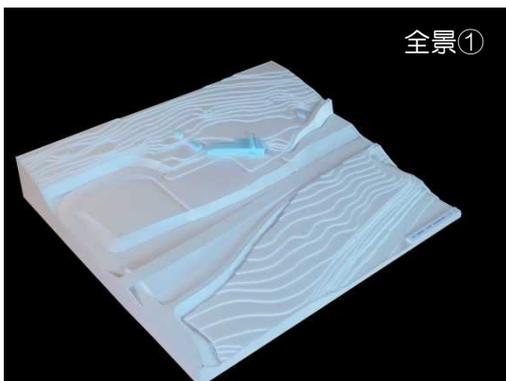
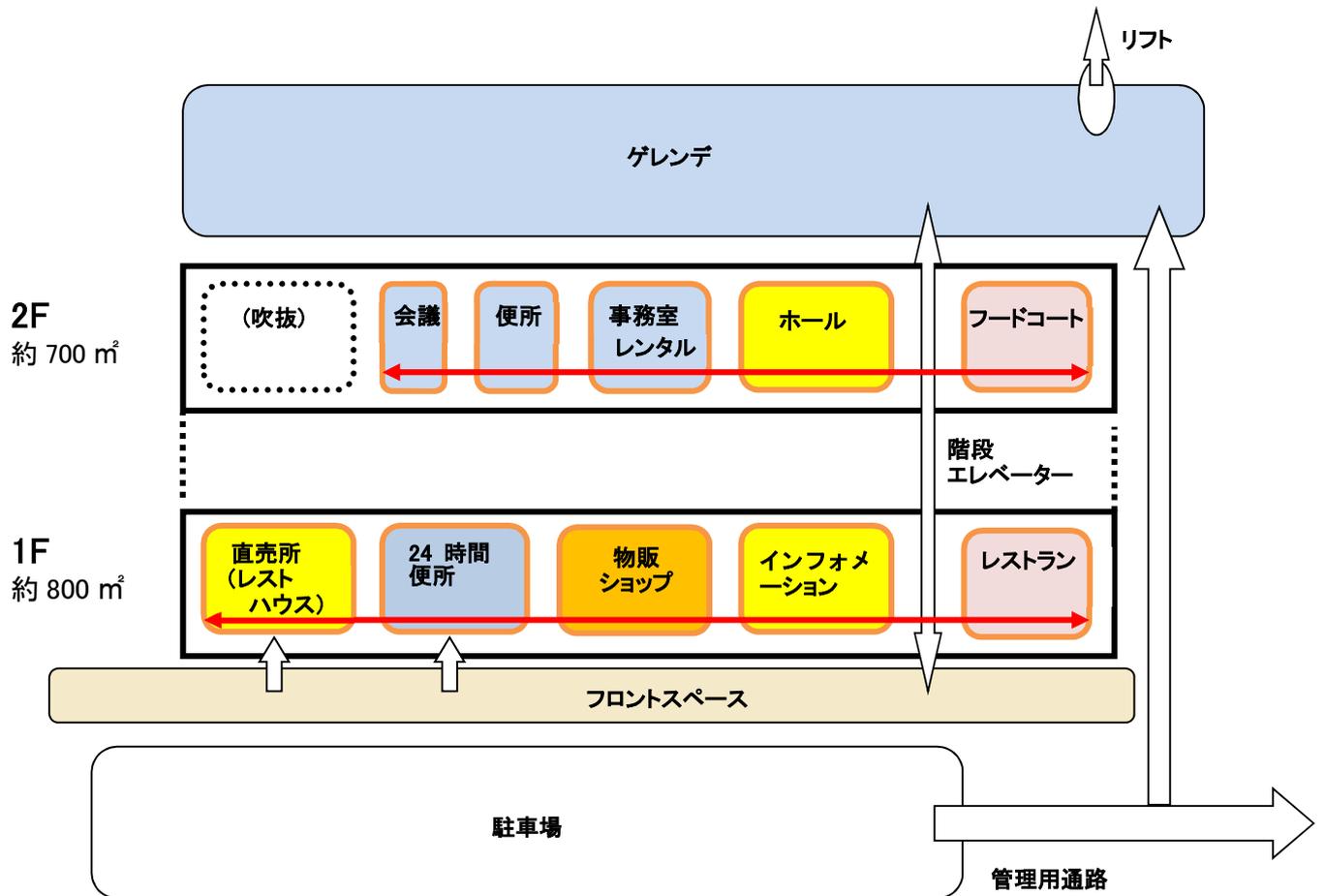
道の駅とスキーロッジについて、部屋別の面積は次のページのように設定しています。

区分	室名	各室面積	参考		
			ニセコ ビュープラザ	くろまつない トワヴェールⅡ	だて歴史の杜
道の 駅	道の駅ホール インフォメーション 情報展示コーナー	150m ²	情報プラザ 案内・物販兼用 127m ²	エントランスホール 情報コーナー 飲食、物販 レストルーム パンショップ 278m ²	農産物、観光物産 677m ²
	物販ショップ	150m ²			
	フードコート (2階)	200m ²	フードコート： 5ブース 147m ²		フードコート 192m ²
	レストラン/厨房 (1階)	200m ²	-	-	-
	24時間便所 ・男女多目的 ・自動販売機置場	100m ²	男女多目的 +時間外便所 63m ²	男女多目的 (24時間) 82m ²	
	直売所 (夏季)	120m ² ※冬季はリストハウス	農産物直売 188m ²	農産物直売 10m ²	
面積合計		約 920m ²			

区分	室名	各室面積	既存ロジ	
スキー ロジ	2階ホール・ 休憩スペース	150m ²	現況>入口ホール 87m ² 食堂ホール 150m ² 厨房 23m ²	既存ロジ 490m ² (レストラン 約 190 m ² を含む)
	スキー場事務室 事務・倉庫	80m ²	現況>事務室 13m ² 道具庫 10m ²	
	2階便所 男女	50m ²	現況>16m ²	
	会議室	30m ²	現況>なし	
	レストハウス	1階直売所を 兼用(120m ²)	既存レストハウス 180m ²	
面積合計		約 280m ² (除くレストハウス)		

(3) 機能構成案 (参考)

前ページまでで想定した各機能の規模を満たすように、配置構成を検討したものを参考として示します。



2. 運営に向けた検討方法

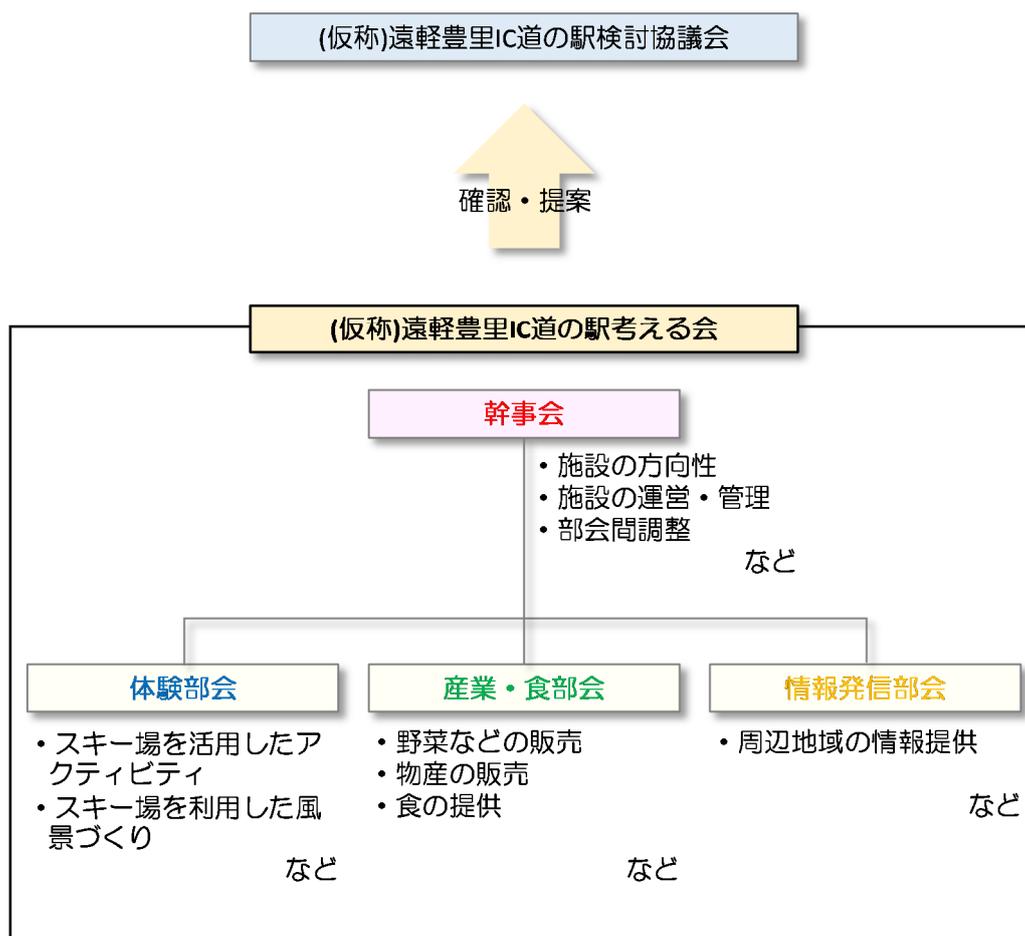
ここでは、協議会で話し合われた運営等に向けた検討の方法としての組織や検討内容について記します。

(1) 検討組織について

協議会は、コンセプトを策定することを目的とした組織でしたが、今後は道の駅の運営を含めて実務者レベルでの検討が必要です。そのため、協議会は組織として見直しを行い実務者レベルでの話し合いの結果を確認する機関として位置づけます。

実務者レベルで検討する組織は、具体化を検討するために専門性を持った部会に分かれて検討を進めます。一方でそれらの部会間や外部とのやり取りなどを行うために幹事会を設置します。

ここでは、確認する組織を「(仮称)遠軽豊里 IC 道の駅検討協議会」、実務者レベルの組織を「(仮称)遠軽豊里 IC 道の駅考える会」としています。



(2) (仮称)遠軽豊里 IC の供用に合わせたスケジュールでの検討

道の駅は、(仮称)遠軽豊里 IC の供用と同時に開設することで、メディアに取り上げられるなど宣伝広告効果が高くなると考えられます。短期的には IC 供用に合わせた施設開設を行うために、建物等の設計に反映しなくてはならないことから検討する必要があります。以下に、平成 30 年度末に開設する設定でのスケジュールを記します。



(3) 考える会での検討事項

考える会で検討すべき事項などは次のように考えられます。

① 幹事会

- 考えられる検討内容：
- 施設の運営を考慮、また、他の部会の意見などを集約し設計や町の計画に対して提案
 - 施設の利用、管理体制
 - 町内の道の駅など他の施設との連携

考えられる関係者： 商工会議所、観光協会、商工会、スキー場管理者、役場

② 体験部会

- 考えられる検討内容：
- スキー場の夏利用
 - スキー場の邪魔にならない風景
 - 地域の情報提供をするレベルと範囲、方法
 - 各種イベント

考えられる関係者： 観光協会、スキー場管理者、体育協会、青年会議所、教育委員会

③ 産業・食部会

- 考えられる検討内容：
- 野菜・果物などの販売に関する組織、ルール
 - 物販に関するルール、方法
 - レストラン・フードコート・軽食などの食を提供する形式、運営、ルール
 - 市街地の飲食店との連携や住み分け
 - 商品開発

考えられる関係者： 商工会議所、物産協会、えんゆう農業協同組合、野菜・果物の生産者、飲食店組合

④ 情報発信部会

- 考えられる検討内容：
- 地域の情報提供をするレベルと範囲、方法

考えられる関係者： 観光協会、道の駅（まるせっぷ・しらたき）運営管理者

これらの専門部会とコンセプトの関係を次のページのように取りまとめました。

また、各部会において、必要に応じて、連携が必要となる組織・機関（北海道開発局、北海道など）や各種専門家（経営・流通関係者、金融機関など）にも参加や話題提供を依頼することも必要となると思われます。

ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅

スキー場併設ならではの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。

食や文化を守り・育て・続ける、地域でできる再発見できる空間づくり。

旅に楽しさと、安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

- スキー場を活用したアクティビティ
- スキー場を利用した風景づくり
- 利用しやすい休憩空間づくり
- 食の提供
- 野菜などの販売
- 物産の販売
- 周辺地域の情報提供
- 防災拠点としての整備
- 運営組織、管理体制

<p>体験部会</p> <p>◆検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> スキー場の夏利用 スキー場の邪魔にならない風景 地域の情報提供をするレベルと範囲、方法 各種イベント 	<p>産業・食部会</p> <p>◆検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜・果物などの販売に関する組織、ルール 物販に関するルール、方法 レストラン・フードコート・軽食などの食を提供する形式、運営、ルール 市街地の飲食店との連携や住み分け 	<p>情報発信部会</p> <p>◆検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の情報提供をするレベルと範囲、方法 	<p>幹事会</p> <p>◆検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の運営を考慮、また、他の部会の意見などを集約し設計や町の計画に対して提案 施設の利用、管理体制 町内の道の駅など他の施設との連携
<p>◆主な関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会 スキー場管理者 体育協会 青年会議所 教育委員会 	<p>◆主な関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会議所 物産協会 えんゆう農業協同組合 野菜・果物の生産者 飲食店組合 	<p>◆主な関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会 道の駅管理者（まるせつが） 道の駅管理者（しらたき） 	<p>◆主な関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> 商工会議所、観光協会、商工会、スキー場管理者、役場 留意する関係者 役場（施設の設計・管理、町内道の駅との連携、町内観光施設との連携、防災計画） 開発局（防災拠点のあり方）

イベントなどの連携

部会による検討（主に収益事業）

幹事会による統括と確認・調整

資料編

1. 委員名簿

■委員 (敬称略)

北見工業大学 教授	高橋 清 (座長)
遠軽商工会議所 会頭	佐々木 雅 昭
えんがる町観光協会 会長	渡辺 博 行
えんがる町観光協会 生田原支部 代表	杉本 一 幸
えんがる町観光協会 丸瀬布支部 代表	伊藤 友 彦
えんがる町観光協会 白滝支部 代表	矢木 優
遠軽物産協会 会長	西川 剛
えんがる商工会 会長	管野 伸 一
(株)フォーレストパーク 支配人	森谷 正
NPO 法人遠軽町体育協会 会長	佐渡 淳 道 (前任者 吉川 紘)
えんゆう農業協同組合 遠軽支所 支所長	鈴木 慶 樹
遠軽青年会議所 理事長	大西 孝 拡

■オブザーバー

北海道開発局網走開発建設部

北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部遠軽出張所

遠軽町 経済部商工観光課

経済部農政林務課

教育委員会教育部社会教育課

総務部総務課

■事務局

遠軽町 総務部企画課

経済部建設課

遠軽商工会議所

えんがる町観光協会

えんがる商工会

2. 検討経過

開催日	議 事
第1回 平成27年6月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • 町長挨拶 • 委員紹介 • 協議会について <ul style="list-style-type: none"> 協議会の位置づけについて スケジュールについて(事業、協議会のスケジュール) • 座長の選出及び挨拶 • 話題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅の必要な要素(条件)について 道の駅の例について 周辺施設の状況について 2) 道の駅の機能について意見交換
第2回 平成27年7月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> • 現地確認 <ul style="list-style-type: none"> スキー場の地形やロッジ周辺の状況、施設などを確認 • 話題 ～ 道の駅に導入する機能、道の駅周辺のアクティビティについて <ol style="list-style-type: none"> 1) 説明 <ul style="list-style-type: none"> 第1回協議会で出されたキーワードについて ロックバレースキー場の状況について スキー場の夏利用例 2) 道の駅に導入する機能、道の駅周辺のアクティビティについて意見交換
町民ワークショップ 平成27年7月29日(水) 注) 協議会とは別に、参加希望のあった町民により行われたワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> • 情報共有 <ul style="list-style-type: none"> 検討全体のスケジュール ワークショップの位置づけ (仮称) 遠軽豊里ICの位置・予定地の状況 道の駅の登録要件 協議会、プレWSでの意見 • ワーキング <ul style="list-style-type: none"> スキー場、夏利用について 道の駅に導入する施設、活用について 各グループの発表、まとめ

開催日	議 事
第3回 平成27年8月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> • オブザーバー紹介 • 話題 1) 報告 <ul style="list-style-type: none"> 前回協議会とワークショップの結果 道の駅アイデア募集コンテストについて 2) 議題 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅および周辺施設のコンセプト案について 道の駅本体に導入する施設・機能について
第4回 平成27年10月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> • 話題 1) 報告 <ul style="list-style-type: none"> 前回協議会の結果 道の駅アイデア募集コンテストについて 道の駅の視察について 2) 議題 <ul style="list-style-type: none"> 道の駅および周辺施設のコンセプト案について 道の駅本体に導入する施設・機能について 考える会について
第5回 平成27年12月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> • 話題 1) 報告・説明 <ul style="list-style-type: none"> 前回協議会の結果 重点「道の駅」について 2) 議題 <ul style="list-style-type: none"> 提言書(案)について 今後のスケジュールについて • 町長挨拶